

将来の林業生産のあり方は

日南町森林組合長 内田博長

日南町森林組合長の職をいただいておりますが、鳥取県議会議員としての活動と、26年11月定例議会において代表質問した内容もあわせてお知らせします。

はじめに、林業の先進地視察について報告します。オーストリア共和国のケルンテン州及びクラーゲンフルト郡において、林業再生の方向性を見出すべく、県内の林業に関わる方達と共に研修に参加しました。



在日本国大使館に鳥取県出身の竹歳大使を表敬訪問し、オーストリアの国情について説明を聞き、次の日クラーゲンフルトに移動して、当地で開催されていたクラーゲンフルト・メッセ・木材関連産業展示会を視察しました。そこには、ヨーロッパから伐採、搬出、製材、加工、バイオマス関連等の企業が多く出展しており、日本企業も出展していました。

私は、最新の林業伐採の実演を見て、将来の日本国内の林業経営に取り入れる必要性を肌で感じました。

さて、鳥取県内では、県の間伐材搬出補助金により森林整備が進んできています。特に、日南町内では林業研修生制度の活用もあり、若年の林業従事者が増え、林業生産額が主要産業である農業生産額を抜きつつあります。

しかし、緩斜面の山林の間伐が進み、次は急斜面での間伐となれば、現在の鳥取式林道では作業が困難となり、今後大規模林道の必要性が生じてくると思われます。また、間伐が進むことにより、残った樹林が生長し大径木となっていくことを考えますと、現在使用している林業機械では作業が不可能となります。このような状況を踏まえ、将来の林業のあり方について検討する必要性を知事に問いました。

知事の所見では、オーストリアの林業生産も参考にし、低コスト林業を目指して競争力のある鳥取県の山地づくりをしていく上で、急傾斜地で架線系、緩傾斜地での大規模輸送機械の導入など、今後の戦略づくりを検討していきたい。という答弁がありました。

森林は今ほとんど間伐が主ですが、今後、皆伐、再造林も考える必要があると思っています。森林林業活性化議員連盟全国会議でも、皆伐後の施業の進め方を検討しており、林野庁とも検討しながらまとめたいと思っています。